

国語 第2学年 かんそうをつたえ合おう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：がまくんとかえるくんの行動を確かめ、自分の経験と結び付けて感想をもつ。登場人物への好き嫌いにとどめず、待つことや相手を思うことをどの行動から感じたかを伝える。C(1)オ・C(1)カの学習として、お手紙の感想カード。人物の行動、自分の経験との共通点や違い、そこから感じたことを記す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、人物の行動と自分の経験を結び付けて感想をもち、友達と伝え合っているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)オ・C(1)カの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：お手紙の感想カードを残す。人物の行動、自分の経験との共通点や違い、そこから感じたことを記す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)オ・C(1)カに関わる学習の中身を確かめる。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：自分の経験を長く話し本文の行動と結び付かない。主語が省かれた文で人物を取り違える。これについて、誰が何をしたかを主語と述語で確かめる。「物語での行動」と「自分の経験」を分けて書き、似ている点か違う点を説明する。手紙を受け取った経験がない場合は何かを待った経験でよい。〔知識及び技能〕(1)カとC(1)オ・C(1)カを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「二人のどんな行動が印象に残りましたか。自分が待ったり相手のことを考えたりした経験と比べると、どう感じますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)オ・C(1)カに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：お手紙の感想カードは紙に記録できる。人物の行動、自分の経験との共通点や違い、そこから感じたことを記す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)オ・C(1)カの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)オ・C(1)カで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：既存版の心情中心の指導案をそのまま使えるか。

返し：東京書籍のこの単元はC(1)オ・カと〔知識及び技能〕(1)カを重点にする。行動の確認を基に、経験と結び付けた感想と共有を評価の中心に置き直している。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「二人のどんな行動が印象に残りましたか。自分が待ったり相手のことを考えたりした経験と比べると、どう感じますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)オ・C(1)カに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

